

校内研究便り No.3

令和5年6月7日(水)
昭島市立玉川小学校
研究推進委員会

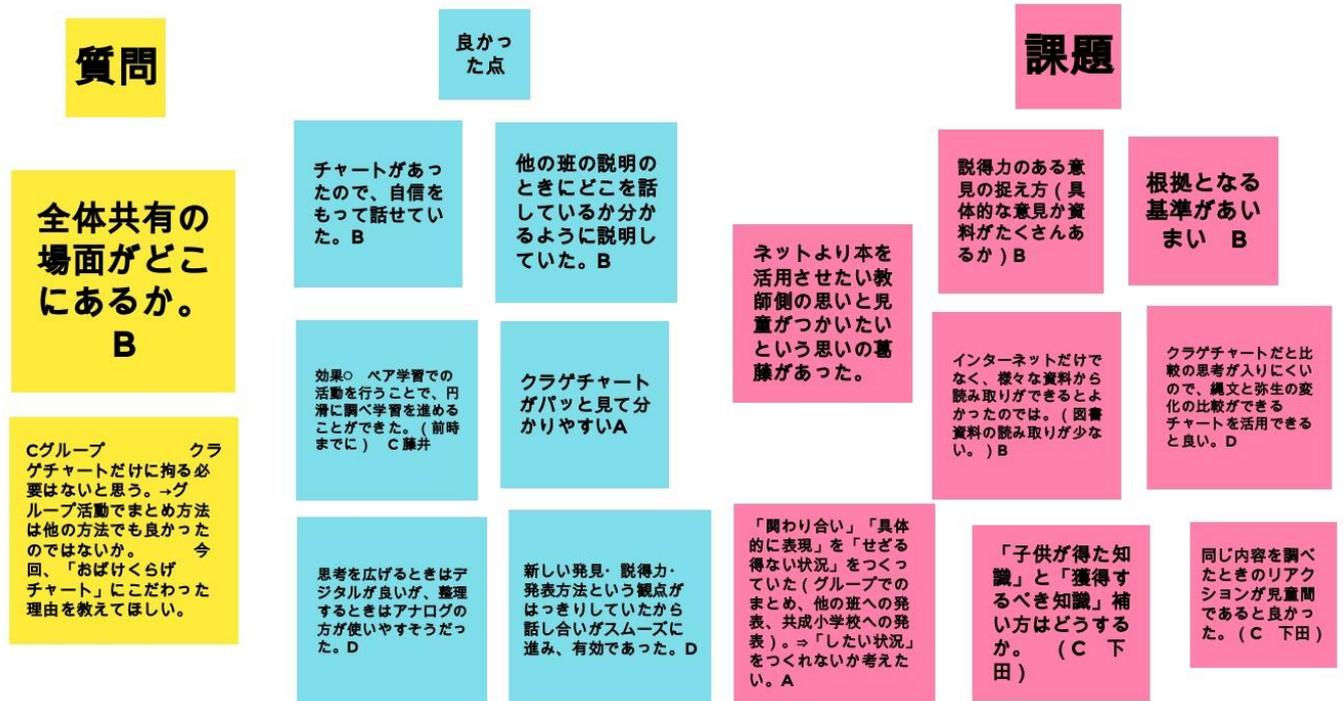
1 研究授業ありがとうございました

5月31日(水) 第一回研究授業が行われました。授業者の先生をはじめ、高学年分科会の先生方、タイトなスケジュールの中打ち合わせを重ねて準備していただき、ありがとうございました。

協議会では、今野先生に御提案いただき、協議会の時間を確保し、新たな取組として1枚のジャムボードに全員の意見を集約しました。司会や記録の先生方、御協力ありがとうございました。



2 協議会より



- 思考ツール(おぼけくらげチャート)は、自分の考えに自信がもてない児童にとっては有効で、自由にアイデアを出せる児童にとっては良い考えを削ぐことになっていた。
- ジャムボードでまとめることも考えたが、意見を出す時には有効だが、集約する時には同じ紙を見ながら操作した方が早いと考えた。
- やらねばならない必然性も大事だが、児童が本当にやりたいかどうかも大切にしたい。
- インターネットで調べた情報の正確さをどのように判断させるか難しい。
- ➔ 思考ツールはメモ程度に捉え、必要に応じて選んだり変更したりして個別に対応していく。
- ➔ 授業のねらいに合わせて、ツールは指導者が厳選する。意図的なアナログタイムも必要。
- ➔ 共成小を相手として、緊張感や必然性をもたせたが、気持ちの面も忘れずにいたい。
- ➔ 事前に情報の正確さを検討するワークが必要。複数、異種の情報源に同様の記載があるか?など。

※ 協議会の記録を井上先生がまとめてくださいました。クラスルーム研究に貼り付けました。

3 指導講評 講師:明星大学准教授 今野貴之先生 より

協議会について

- 良い点と課題が重なるところもある。
- チャートはあくまでも思考を整理するためのメモ。
- いくつかの思考ツールを使った経験の後に、用途に応じてツールを選ばせる場合もある。
- 8割には助けになっても、1、2割は思考ツールで苦しむ場合がある。柔軟に個別に対応していく。

授業について

- 船木先生の指示は、見通しがはっきりしていて、ゴールが明確で活動がしやすい。
- 隣同士で何をすれば良いか確認するのも良かった。
- 複数の資料から情報を探させると良い。
- 聞き方や話し方についてポイントを示すと良い。

グループへの質問

- 本時の授業で先生は何を学んだか。
 - ・合理的配慮を踏まえた掲示の仕方。
 - ・見通しをもたせた授業の進め方。
 - ・思考ツールを用いた学習活動。
 - ・児童個人に振り返り方のポイントを意識させた学ばせ方。
- 本時の授業の学びの振り返り(各グループより)
 - ・自分にどう生かすのか。研究授業の見方を勉強していきたい。(A)
 - ・事前の研修で思考ツールを学習していたので、活用方法について考えながら参観できた。(B)
 - ・子供の目線に立って学習に参加できた。(C)
 - ・子供が本時の学習の中で何を身に付けることができたのか、授業者として意識していきたい。(D)
- 自分の学びを表現するのは難しい。
- どういうステップで学ばせるべきか、子供たちに必要なものは何かを考えてほしい。

4 今野先生より本を紹介していただきました

「まんがで知るデジタルの学び
ICT教育のベースにあるもの」
前田 康裕 著／さくら社 出版

さくら社ホームページより

<https://www.sakura-sha.jp/info/mangadeshiru-digital/>

「まんがで知る教師の学び」など、公立小中学校勤務の経験を生かした著書を沢山出版されている先生です。

職員室の校内研究の棚に置きますので、読んでみてください。

